太平洋の現場から

サモア独立国
Independent State of Samoa

井上 順江
在福島サモア独立国名誉領事夫人

井上 順江

INOUE Yorie

サモアのお花事情

始まりはヒョンなことから

子供の頃、ご近所のアメリカ人の女の子と知り合い、子供同士お互いの家を往来しているうち、家族ぐるみのおつき合いをするようになりました。アメリカの豊かな、そして自由な雰囲気に触れて海外への憧れを膨らませました。誰もがそうであるように、悲喜こもごもの青春を謳歌しつつ就職。その先の出会いで結婚し、子供にも恵まれ、お陰様で小さな幸せを戴きながらの人生でしたが、海外には無縁でした。そんな私がこの歳になり初めて海外にチャレンジする機会に恵まれました。そのご報告をさせて頂きますが、どうぞ普通の主婦の感想文だと思ってお読みください。

さて、サラリーマンの妻として、子を育て、又、主人も入社した会社を勤め上げ、現在の会社に最後のご奉公として奉職し、ここで太平洋島嶼国とのご縁ができました。主人がたまたまサモア独立国の名誉領事を拝命し、その一環としてご挨拶方々一昨年サモアを訪問することになり、私も同行いたしました。主人は仕事がありましたが、私はご挨拶以外は特にやることがありませんでしたので、「せっかくの機会だから、文化交流でもやったら」との主人の一言があり、そのような機会をセットして頂きました。

学生の頃からお花が好きで、子供がある程度育った段階から生け花を続け、生け花講師もしてきました。そこで、何かお役に立ちたいとの気持ちで２日に渡り、２時間ずつ４コマ、計 80 人くらいに教授することにしました。もちろん、どういう花材があるのか、日本の生け花がどう認識されているかも分かりません。わからないことだらけの中で、東京のサモア大使館のシラ大使からアドバイスを頂きながら、兎に角、花器と剣山を持ち込みました (剣山を持ち込む時、税関での説明には苦労しましたが)。

サモアの典型的な盛り花

生け花教室

花材の調達は、サモアのガーデニングを統括されているマルコム・ヘーゼルマンさんのお庭で行いました。とても広い庭で、様々な種類の植物が咲き乱れていました。南国のお花や枝をトラック一杯採集させて頂きました。ヤシの枯れた素敵な枯葉があって「素敵！最高！」と叫んだら、マルコムさんは目を見張って「えっ、それ使うの？ゴミだよ」みたいな反応で可笑しかったです。

枯葉に驚くマルコム氏

さて、授業はサモア国立大学で行いました。ひとクラス 20 名程度で、午前・午後の２回制。講義は流派とか日本のルールとかそういうものではなくて、極力日本人の自然に対する考え方、草木に対する見方、日本人は美をどう捉えて来たかなど、オールジャパンの立場でお話するようにしました。花のことばかりではなく、ガーデニングや床の間、家屋の作り方など、人間と自然の関連性に関わる日本人の考え方を披露するように心掛けました。

幸いなことに、初日の授業が新鮮だったようで、その日の内にフェイスブックで広まり、翌日は想定よりも多くの方々が集まり、とても盛り上がった授業が出来ました。会場になったサモア国立大学からも喜ばれましたし、また、全体を統括されたマルコムさんにも喜んで頂けて、とても嬉しかったのが昨日のことのようです。

サモアお花事情

日本の生け花といえば、元々はお寺における供花から発祥しているので、松を始めとして梅、竹、カキツバタ、菊など日本の花、枝が本来でした。それが、家屋の環境変化、つまり核家族化に伴う家屋の狭小化や床の間の省略が進み、同時に侘び寂びの世界だけでなくて華やかさや可愛さを表現するなど価値観の多様化も進んで、使用する花材も国外からの輸入物、栽培物と多様化して来ました。蘭やハイビスカス、ストレリチアなど、南洋の花も多く生産、あるいは輸入され活用されています。

一方でサモアはどうかといえば、国民性としてお花大好きで、各人のお庭を綺麗な花や植物を栽培して飾っています。気候がいいので生育がよく、一年中花が咲き乱れ、可憐で派手な色の葉が風に揺れている風景は、まさに南海の楽園そのものです。日本で見慣れた花や葉もありますが、初めて見た植物も多くありました。

ご承知の通りサモアは、100% クリスチャンの国です。日曜日には家族揃って正装して教会で礼拝し、その後は静かに過ごします。教会への寄進として、お花のアレンジメントを作ります。色柄を考えながら、オアシスを使って逆三角形にバランス良く大きく作ります。

これらは、ある意味で形が決まってしまい、大きさ勝負のようなことになってしまっているので、日本から入ってきた全然違うスタイルの生け花は興味を持たれたようです。わずか２日間の交流でしたが、新聞に大きく報道されたことにはビックリしました。

再度のサモア行

一昨年は、主人の出張に合わせたいわば公式訪問に帯同する形だったわけですが、帰国後はマルコムさんから次回はいつ来るのかとのお誘いがあって、その気になりました。海外留学したかった若い頃を思い出し、主人からの「身体が動くうちにやりたいことをやったら」という後押しもあって、人生初めての単身海外出張 (自分では文化交流しつつの英語留学のつもり)2 ヵ月を昨年敢行してきました。出来るだけ日本語を喋らない状況に置けば、英語が身につくだろうとの考えもありました。事前に英会話の本を買い込み、何十年ぶりの受験勉強のつもりでやりましたが、残念なことに若い頃のようには頭に入ってくれませんでした (苦笑)。

シラ大使に手配頂いたお陰で現地の受け入れ体制も敷かれ、当初は週２回から３回のセミナーを計画。また、初めての方と前回やった方とのコースを分け、より進歩が図れる内容としました。

ところで、福島県いわき市が 2020 年の東京オリン

首都アピアでの授業

ピックに際してのホストタウンとなり、文化交流、人材交流をサモアとの間で行うことで合意しております。その第一回目ということで、日本の夏休みを利用して高校生を派遣し、交流する計画がありました。そこでそのタイミングに合わせて随行し、娘のような、孫のような子供達の応援もすることとしました。現地では二つの高校を訪問し、茶道や華道をご披露しました。彼女達も一所懸命で、お互いの生活、文化に興味津々、とても良い交流だったと思います。又、現地の歓迎も盛大で、日本の子供達には一生の思い出になったのではないでしょうか。このような若い人達の交流は、本当に大事だと思いました。

サモアでの日々

高校生の交流団が４日間の行程を終えて帰国した後、ここからが私にとっての本番でした。

最初のセミナーは、前回の経験者のクラスでしたので、懐かしい見た顔ばかりでみんなニコニコ。お花大好きが滲んでいて、つい熱が入ったレクチャーとなりました。園芸関係者、ホテル関係者、教会単位などなどグループごとにレッスンし、進捗具合を見ながら楽しくワイワイとやりました。本当にサモアの方々はお花が好きで、勉強熱心です。

自然を再現する、あるいは風が感じられるようになどの日本人的感覚も理解して頂いて、従来のアレンジメントと全くコンセプトの違う日本の生け花が受け入れられるのが実感できました。

サモアの方々の知識向上に比して、自分の英語力が向上したのかどうか分かりませんが、少なくとも日常生活の最低限の用は足りるようになりました(?!)。何よりも、暖かさや食事が体質にあったのか、風邪ひとつひかず、むしろ日本にいる時よりも体調は良かったように思います。日本と違って夜テレビを見ないので、自然と早寝早起きになりましたし、毎日ニウ(ヤシの実ジュース)を飲んで体調維持。朝、昼をシッカリ食べて夜は寄り合いがなければ軽く済ますことで食事のペースもつかめました(何と言っても現地の料理は日本人には量が多いですからね！)。朝方にザーッとシャワーのようなスコールがあり、からりと止んだ後の綺麗な空気の中で食事をし、近所を散策し、クラスのある日は頑張り、オフの日にはノンビリしたり、誘われて海に行ったりおしゃべりしたり。充実した毎日でした。

ホテルは、ほぼ週単位で移動。あるホテルの受付で、朝食に行く「今日のご予定は？」と聞かれ、「今日はオフよ！」と言ったら、お花もっと教えてくれないかという依頼。確かにレセプションに生け花があり、クラスの参加者だったので、「じゃあ食事終わったらね！」と即席クラスを開講しました。彼女はレセプションの仕事をしながら、庭から花や枝を切って来て何ん杯も生けていました(そんなにホテルのモノ切っちゃって良いの？とも思いましたが、何せ生育の良い南国のこと、「まあ良いか！」ですね)。

サバイ島でも生け花行脚

今回は首都アピアのあるウポル島だけでなく、もう一つの大きな島であるサバイ島にも出かけて、クラスをやりました。サバイ島のクラスを統括してくれたのは、エリザベスさん、テイナさんで３泊４日、移動しながらの生け花行脚。今回は、最初から通訳ボランティアを買って出てくれた理恵子さんが、サバイ島にも付き合ってくれました。サバイ島は、ウポル島よりさらにノンビリ感が漂う良い島で、花咲き乱れ風光明媚。ホテルは近代的なリゾートホテルもありますが、万全とは言えません。泊まる度にハプニングの連続と大笑いの思い出が・・・・。何せ暖かいサモアのこと、まぁ、硬いこと言わずに。サモアの方々の特徴ですが、とにかく親切、人懐こい。サバイ島もその通り。これで船が揺れなければ、もっと良いのですが。何せ、南太平洋のど真ん中ですからね。火山の噴火跡もある自然いっぱいの島です。

サバイ島でも授業を実施

総仕上げのショーケース

参加した人達が集まって、ショーケースをやろうということになりました。日本で言うと花展です。ハーバーにあるレストランのデッキをお借りして、盛大に挙行しようと言うわけです。当日は各省庁の要人ゲストの前で大きな作品のデモンストレーションをしてもらいたいとの要望依頼もあり、では何か大き目の物をと思って、太い竹を土台に赤とピンクのジンジャーをあしらった作品を作ろうと思いました。材料はルイーズさんのお庭で採集させてもらいました。赤いジンジャー100本、ピンクのジンジャー100本、それにヤシの葉100本、これ全部頂いてもビクともしない大きな庭に、ビックリするやら羨ましいやら。まるで植物園のようで、狭い日本の家屋事情では考えられません。

当日は朝から皆さん集まって、ハーバーの強風の中でしたが、思い思いの花を立て、とても良く出来ました。病を得たマルコムさんの代わりに、お嬢さんがスピーチをしてくれて感激。ご出席頂いた日本の青木大使からも「このような心で繋がった活動は、これまで見たことがない。今後とも是非続けて欲しい」とのお言葉を頂きとてもありがたく思いました。

生け花といっても皆さんまだ始めたてですから、細かいことを言えばまだまだ直すところが山のようにあり、教えることも山のようにあります。ですが、兎に角お花が好きで、従来と違った花の生け方があり、ほんの少しの花や葉でも生け花として成立するのだということが理解されたのが一番でした。このようなことが続けば、サモア独自の生け花が出来上がってくるかも、と期待が膨らみます。楽しみです。

現地では大きく報道

ショーケース完成に向けてみんなで作業

戦い済んで・・・・

アッという間に、滞在予定の60日が来てしまいました。最後に、サモアにいろいろな形で滞在する日本の方々に、講義の時間を持ちました。お花のこと、日本文化のことなど、色々です。海外にいるからこそ日本のことに気づいたり、その対比で現地を知ることも多いようです。若い方々がいろいろな分野で役に立っているのを目の当たりにすると、現代の若者もすてきに頑張っていると思えます。そして自分も若い頃、海外留学を夢見たことを思い出します。結局留学はできずに違う人生になり、そのことに後悔もしていませんが、若い人には是非「思ったように羽ばたいたら」と応援したくなります。

今回、マルコムさんに代わって全体の統括をして頂いたニネットさんは、東京オリンピックのチームのマネジャーに指名され、今年、来年と来日予定とのこと。再会がとても楽しみです

そういえば私は、「多少でも英会話を！」と思ってのチャレンジでした。結果ですか？覚えた数少ない言葉が消えないうちに、またトレーニングに行かないといけないレベルです。又、帰国する際に涙ながら固くハグして見送ってくれたタタさん、ルイスさんに再会するためにも、飛行機代とホテル代をセッセと稼がないといけませんね。

では、ファーフェタイラバ！

「残念にもマルコムさんは、本年１月13日にご逝去されました。ご遺志を大切に更にサモアとの架け橋となる様尽力します。合掌」